



GREEN LETTER

グリーンレター

Vol. 294

2021/09/01

今月の一枚

今月のイベント

参加者募集

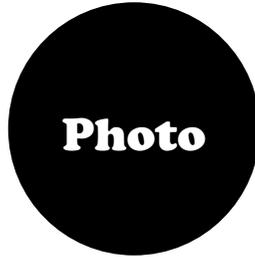
GREEN COLUMN

01. 紙の歴史

02. 身近すぎて気づかないこと



今月の一枚



あしゅう
「**哀愁の季節**」

表紙作品／岸本裕躬^{ひろみ}・文／久保田結衣

今年の夏、美幌町は猛暑が続きましたが、ようやく涼しさを感じる日が訪れるようになりました。気づけば陽が落ちるのも早くなり、この時期は何かと感傷的になります。

つい連想するのが、常設展示中の岸本 裕躬作<浜辺のバッタ>（2001年制作）。2匹のバッタが、浜辺で落陽の様子を眺めている様子が描かれています。美しい情景と、バッタの限りある命…漂う哀愁が、この季節とどこか重なるような気がします。

Event. 今月のイベント

特別展「びほろのアケボノ～旧石器時代の遺跡～」 ～10月24日(日)

ロビー展「すごい標本!すごい資料!」 ～10月6日(水)

「美幌博物館でお宝をさがせ!」 ～9月30日(木)

博物館講座(芸術編)「写真のような絵を描こう」 9月11日(土)

プチ工房「やってみよう!草木染め」 9月17日(金),18日(土)

敬老の日「無料開館」 9月20日(月)

親子で野外体験「秋の落ち葉で遊ぼう」 9月25日(土)

Information. 参加者募集

「美幌博物館でお宝をさがせ!」

●9/1(水)-30(木)9:30-17:00 ●美幌博物館 展示室 ●展示室観覧料に準じます(高校生以下は無料),
9/20(月)はどなたも無料 ●申込み不要。お一人様1日1回限り。

博物館講座(芸術編)「写真のような絵を描こう」

●9/11(土)10:00-12:00 ●美幌博物館1階講座室 ●参加費100円,筆記用具,マスク,必要な方は眼鏡
●久保田結衣(美幌博物館) ●美幌博物館へ電話申込み(-9/10)。中学生以上～一般12名で締切。
小学生以下は保護者の同伴が必要。

プチ工房「やってみよう!草木染め」

●9/17(金),18(土)①10:00開始,②14:00開始 所要時間90分,作品ができたら終了 ●美幌博物館1
階 講座室 ●参加費600円,マスク ●城坂結実(美幌博物館) ●美幌博物館へ電話申込み(-9/16)。
各回定員12名で締切。小学3年生以下は保護者の同伴が必要。定員に達しない場合は当日参加も
可能です。

親子で野外体験「秋の落ち葉で遊ぼう」

●9/25(土)9:30-12:30 ●美幌みどりの村森林公園キャンプ場 ●参加費500円(一組),野外で活動で
きる服装,軍手,飲み物,カップ,マスク ●城坂結実(美幌博物館) ●美幌博物館へ電話申込み(-9/22)。
幼児を含む親子5組(先着順)。

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため,発熱がある,あるいは体調が優れない方のご参加
はお控えください。各イベントは,内容の変更や中止となる場合がございます。また状況により,
一時休館となることもございます。事前にお電話でお問い合わせの上,ご参加ください。

今月の休館日

● ●
6日, 13日
21日, 24日
27日

〈凡例〉 ●日時 ●場所 ●費用,持ち物 ●講師 ●申込み方法

01 GREEN COLUMN

グリーンコラム

紙の 歴史

写真・文／久保田結衣



た だいま、ロビー展にて版画の紹介をしています。その中で、改めて面白いと感じたのが、版画の誕生の中で、支持体となる「紙」が少なからず関わっていることです。世界で最古の版画は、木版画とされており、その誕生は 860 年代の中国とされています。当時の人々は、仏教を木版を用い「紙」に転写することで、伝承していきました。今回は、身近にある紙の歴史について、少し触れてみたいと思います。

最古の製紙の技術は紀元前 3000 年頃、エジプトのパピルス草からつくる「パピルス紙」が最初とされています（パピルスは paper の語源とされています）。

東洋における製紙技術は、紀元前 100 年頃に中国で発明されたと言われています。その後日本に伝えられ、こうぞ みつまた楮や三椏などの樹皮を原料にした和紙

が作られました。

西洋では、パピルスの調達が困難であるため、「羊皮紙」と呼ばれる、動物の皮を伸ばし乾燥させた紙（正確には皮膚^{ひふ}）が使われました。聖書や公文などに広く、長い間使用されていましたが、1400 年頃より東洋から製紙技術が伝わると、労力を要する羊皮紙に対し、作業が容易であるため、前者の技術が普及するようになります。麻や木綿などの使い古した布を原料とし、現在でいう洋紙が作られるようになりました。ちなみに、木版画が西洋に伝来したのは、製紙技術が継承された後とされ、東洋とは異なる「木口木版^{こぐち}」という技術が誕生するきっかけにつながりました。

美術の分野に関わらず、私たちの生活において紙の存在は、とても身近なものです。わずかでも、紙の歴史について興味を持っていただければ幸いです。

身近すぎて 気づかないこと

写真・文／城坂結実



灯とう台だい下もと暗くらし。ことわざで言われ
るように、あまりにも身近に
あると気がつかなかったり、見落とし
たりしてしまうことは、よくありま
す。「物」に対しても使いますが、人
間関係のような抽象ちゆうしやう的なものに当て
はまることもあるのではないでしょ
うか。もしかしたら、コロナ禍で生活様
式がガラリと変わり、こういったこと
を日々感じていらっしゃる方も多いか
もしれません。

植物もこのことわざの例にもれず、
自宅の庭や畑に生える雑草の名前を知
らなければ、花も見ることがないなん
てことは、よく聞きます。

写真は、スベリヒユという草花です。
楕円形だえんのテカテカした分厚い葉っぱが
特徴的で、庭や畑、道端で見たことが
ある方は多いのではないのでしょうか。
しかし、7～8月頃に咲く、小さな黄
色い花に気がつく人は、少ないように

感じます。ご多分に漏れず、私もその
一人で、どこにでもあるはずのスベリ
ヒユの花の写真を撮るのに、今年は随
分ずいぶん苦労しました。

花を見かけない大きな理由の一つ
は、庭や畑で目立つ雑草がゆえに、花
が咲く前に抜かれてしまうことです。
これはもうしょうがないです。花が咲
くのを待っていたら、スベリヒユはど
んどん大きくなるし、花が咲けば種も
でき、またまた増えてしまいます。も
う一つ、花を見かけない理由として、
スベリヒユの花が咲くのは天気の良い
日の午前中だけということがありま
す。曇りくもの日や、天気が良い日でも午
後になると花を見ることはできませ
ん。

快晴の日の朝8時半。せせらぎ公園
でようやく撮ったスベリヒユの花は、
よく見ると花卉に切れ込みが入って
おり、かわいらしかったです。

【発行】

美幌博物館

【デザイン・編集】

城坂結実・久保田結衣

【お問い合わせ先】

美幌博物館

北海道網走郡美幌町字みどり 253 - 4

Tel / 0152 (72) 2160 Fax / 0152 (72) 2162

mail / museum@town.bihoro.hokkaido.jp

<http://www.town.bihoro.hokkaido.jp/bunya/museum/>

無断掲載・転載を禁ずる

学芸員のつぶやき



公園で這いつくばって写真を撮っていたら「大丈夫ですか!？」と声をかけられました。

元気です、大丈夫です。心配してくださって、ありがとうございました。(城坂)